

廃棄物の減量化進む秩父市

集排汚泥、生ごみを消滅処理

農業集落排水処理施設にし渣消滅装置を設置し、汚泥発生量を低減する取り組みが、埼玉県秩父市で昨年二月から行われている。また家庭にデイスポーターを設置し、生活雑排水と共に家庭生ご

みも農集排施設に回収・消滅させる試みも始まっており、市全体で発生する廃棄物の減量化を図っていく考えだ。そこで、同市の取り組みについて見てみた。

汚泥処理費70%も削減

し渣消滅装置に担体投入 もみがら有効利用も

2mm以上の固形分を除去

水は、荒目スクリーンで大量を抑制することが出来ることも多かったという。また、し渣消滅装置のスクリーンで細かい固形分が除去され、除去後の固形分は消滅装置の微生物の働きで水と二酸化炭素に分解される。今後予定地に1m mスクリーン導入

し渣消滅装置が設置されているのは、秩父市北部の太田上地区にある農業集落排水処理施設「太田上集落排水処理センター」。

し渣消滅装置のスクリーン処理水量は日量一六〇立方mで、施工は昭和エンジニアリング。昨年二月一日から供用を開始した。

センターに集められた汚泥が大幅に減り、汚泥発生



し渣消滅装置

全国展開へ期待高まる

30戸がデイスポーター設置

同地区では、各家庭にデイスポーターを設置し、家庭生ごみを農集排施設で処理する取り組みを進めている。生ごみの流入は汚水処理の汚濁負荷を上げ、汚泥発生量を増加させることになり、し渣消滅装置があれ



ば、その心配は無い。すべ

稼働順調、衛生面でも効果大

同地区の水洗化の状況をみると、一六六戸のうち一〇二戸が接続を完了している。向が注目される。

んでおり、「この数字だけ生ごみが結まるなどの問題を見ても設置した効果は大きい」と同市経。 同市では今後、余剰汚泥の減容化に関する先進地視察など積極的に行うようにしたほか、生ごみ消滅装置の設置も検討している。また、同地区では、目標としてより多くの家庭から出る生ごみが多少なりとも減っているのでは「ないか」とごみ減量効果も期待されている。

同市ではデイスポーターについて、今後も地元の維持管理組合の協力を得ながら、設置に向けての啓発に努めていくとともに、「農林課としても、デイスポーターの設置に市の補助金を何とか頂き、各家庭の設置負担を少なくする一助にしたい」と考えた。

農集排施設における汚泥発生量の削減と、デイスポーターによる生ごみ発生量の削減——一石二鳥の効果が期待されている。同市は十一月十二日現在、処理施設や管路施設、ポンプ施設は順調に稼働しており、